

令和2年度 1学期始業式

おはようございます。新しく赴任しました、校長の川越勇二といいます。放送によるお話ということで、「私は福山雅治にそっくりです」と言っても、皆さんにばれないだろうと思っていましたが、田村先生が、写真を準備してしまったということで、残念です。こんな顔をしています。出身は宮崎市です。ですが、以前、9年間、国語の教師として、延岡東高校、今の延岡星雲高校に勤めていました。延岡は、私が30代のほとんどを過ごした場所で、たくさんの楽しい思い出をつくってくれた土地です。その延岡に帰ってこれたことを、たいへんうれしく思っています。お父さん、お母さんの中にも、高校時代、私の授業を受けた方がいらっしゃるかもしれません。

今日の朝、皆さんが登校してきて、久しぶりに学校に活気があふれました。生徒の皆さんの姿を見て、声を聞いて、胸躍る思いがしました。これから、皆さんと過ごす時間を楽しみにしています。校長室にもぜひ、遊びにきてください。

新年度の始まりに、皆さんにお願いしたいことが一つあります。それは、先生方と一緒にあって、授業をつくってほしい、盛り上げてほしい、楽しんでほしいということです。授業は、先生が一方的に生徒に教えるべき内容を伝える時間ではありません。漫才にぼけと突っ込みがあるように、いい突っ込みがなければ、いい授業は生まれません。いい突っ込みとは何か。それは、「え？何ですか」「ちょっとよくわかりません」という、生徒の素直な疑問や反応です。自分にとっての「わからないこと」を大事にしてほしいのです。

ところで、みなさんは、「頭がいい人」ですか？「頭が悪い人」ですか？「頭がいい人」と「頭が悪い人」のどちらになりたいですか？手を挙げてください、とはいませんが、「頭が悪い人」になりたい、という人は、おそらくいないでしょうね。明治の物理学者で、寺田寅彦という人がいます。「天災（天の災い）は忘れたころにやってくる」という言葉を聞いたことはありませんか？その言葉を残した人です。夏目漱石に師事した人で、「我が輩は猫である」などの小説に出てくる人物のモデルにもなった人。科学者でもあり、文学者でもある寺田寅彦が、「科学者とあたま」という随筆を書いています。その中で、寺田さんは「科学者は、頭がよくなくてはいけない」というのは、ある意味で本当だが、一方で「科学者は、頭が悪くなくてはいけない」。これも本当だ、と言うのです。どういうことでしょうか。

寺田さんは、「いわゆる頭がいい人」は、「足の速い旅人のようなもの」だと言います。人より先に、人のまだ行かない所へ行き着くことができる代わりに、途中の道ばた、わき道にある肝心なものを見落とす恐れがある。頭の悪い人、足ののろい人が、ずっとあとから来て、その大事な宝物を拾っていく場合がある。また、「頭のいい人」は、先の見通しがきくだけに、これは無理だと思ったものには、最初から手をだそうとしない。それに対して、「頭の悪い人」の目の前には霧がかかっているようなもので、見通しがきかないために、はじめからだめに決まっているような試みを、一生懸命に続ける。そこから、だめではないものの糸口をつかむことがある。科学の世界で言えば、自然の中にすっ裸で飛び込んで、思いがけない発見をする可能性がある、と言うのです。こうしてみると、「頭がいい」、「頭が悪い」って、どういうことなのか、いったい、どちらが学問や研究に向いている人なのか、わからなくなってきましたね。「わからない」ことを大事にしてください、それをスルーしないで、恥ずかしがらないで、「わかったふり」をしないで、そこにこだわってほしいと思います。私たちが住んでいる社会は、すぐに答えが見つかるような問題だけで成り立っているわけではありません。人生において、社会において大事な問題は、答えがすぐに出ないものばかりで、わからないまま、どう的確に対処していくかが大事になります。自分の中の「なぜ？」を大事にして、しつこく考え続けて、自分なりの答えを見いだすことは、これからの社会を生きる君たちにとって、最も大切な力です。

みなさんの素朴な疑問や反応こそが、授業に生命を吹き込みます。おそらく、先生方は、それを受け止め、面白がり、一緒に考えてくれると思います。そこから、予想もしないドラマ、発見が生まれるかもしれません。

今年度、延岡高校は、文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の学校に指定されました。対象は新入生からになりますが、学校をあげて、今まで以上に、探究活動の充実に取り組んでいきたいと思っています。「探究活動」こそ、まさに、自分の中の「なぜ？」を大事にした学びですよ。学校の正規の時間、一日のほとんどは、授業です。先生方には、「授業を生徒の学びがいにしましょう、授業を教師の生きがいにしましょう」とお願いしてあります。私たち先生も、いい授業をつくるために精一杯努力します。みなさんも、自分の中の「なぜ？」を大事にして、その答えを授業の中で、先生と

一緒に追いかけてください。

もうすぐ、新入生が入ってきます。延岡高校の生徒としての誇りと自信をもって、君たち一人ひとりが生き生きと輝くことを目指して、一緒に頑張っていきましょう。